マメハンミョウ

１　発生生態

⑴見分け方

ツチハンミョウ科に分類され、成虫は体長 12～17 ㎜程度である。一般的に頭部はオレンジ色を呈し、前胸に３条、各上翅中央と両縁に各１条灰白毛の縦線があるが、この縦線が消失し、上翅全体が黒色を呈している場合がある。１齢幼虫は扁平な紡錘形で、湾曲した大顎と爪のある歩脚を持ち、歩脚脇の剛毛も爪状になっており一見３本の爪を持つように見える。

⑵　発生のようす

東北地方以南に分布しており、発生は年１回である。土中で蛹越冬し、成虫は７～８月に発生、その後土中に産卵する。孵化幼虫は作物を加害せず、バッタ類やイナゴ類の卵を食べて成長するため、水稲においては益虫とされる。カンタリジンという毒を体内に持っており、潰すと皮膚がただれるので注意が必要であるが、皮膚薬などに利用されることもある。

成虫がダイズほ場の一部に群生し、葉脈を残して網目状に食害する。

本県では全域で発生が見られるが、本種による被害が問題となることはほとんどない。

２　防除方法

ほ場の一部に発生するため、防除する場合はスポット的に薬剤を散布する。

写真　マメハンミョウ成虫